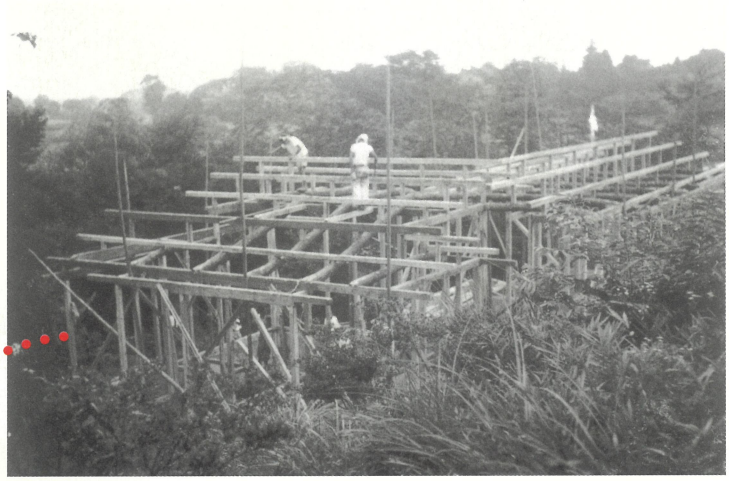
55

もっと知りたい 武者小路実篤

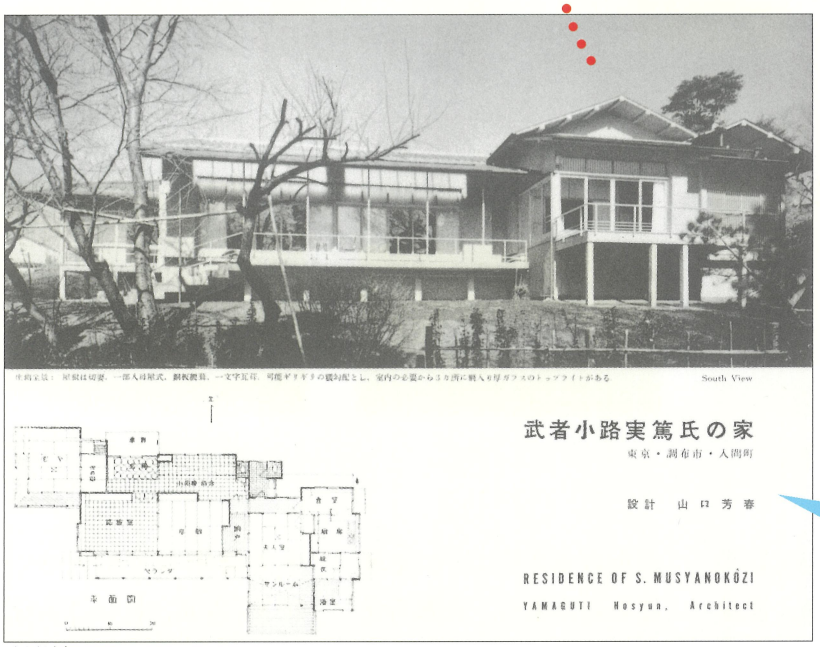
仕事もして生活もする 仙川の家

70才で建てたマイホーム

自ら歩いて土地を探し、建築家を決め、自分の仕事や生活に合わせて一から家を作ることにしました。昭和30（1955）年7月21日には、建設中と完成後も建物が無事であるよう願う「上棟式」が行われました。



昭和30（1955）年7月21日

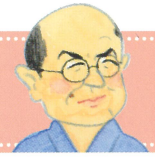


『新建築』第31巻第3号　昭和31（1956）年　より

木の柱、土の壁、瓦屋根のように日本に古くから伝わる「木造住宅」でありながらも、テラスや天窓を作るなど、当時としてはモダンな家でした。

この家を設計した建築家・山口芳春は、もともとある自然が美しく魅力的だったので、自然に馴染む家を作ることを心がけたといいます。

建築の専門雑誌に取り上げられました！

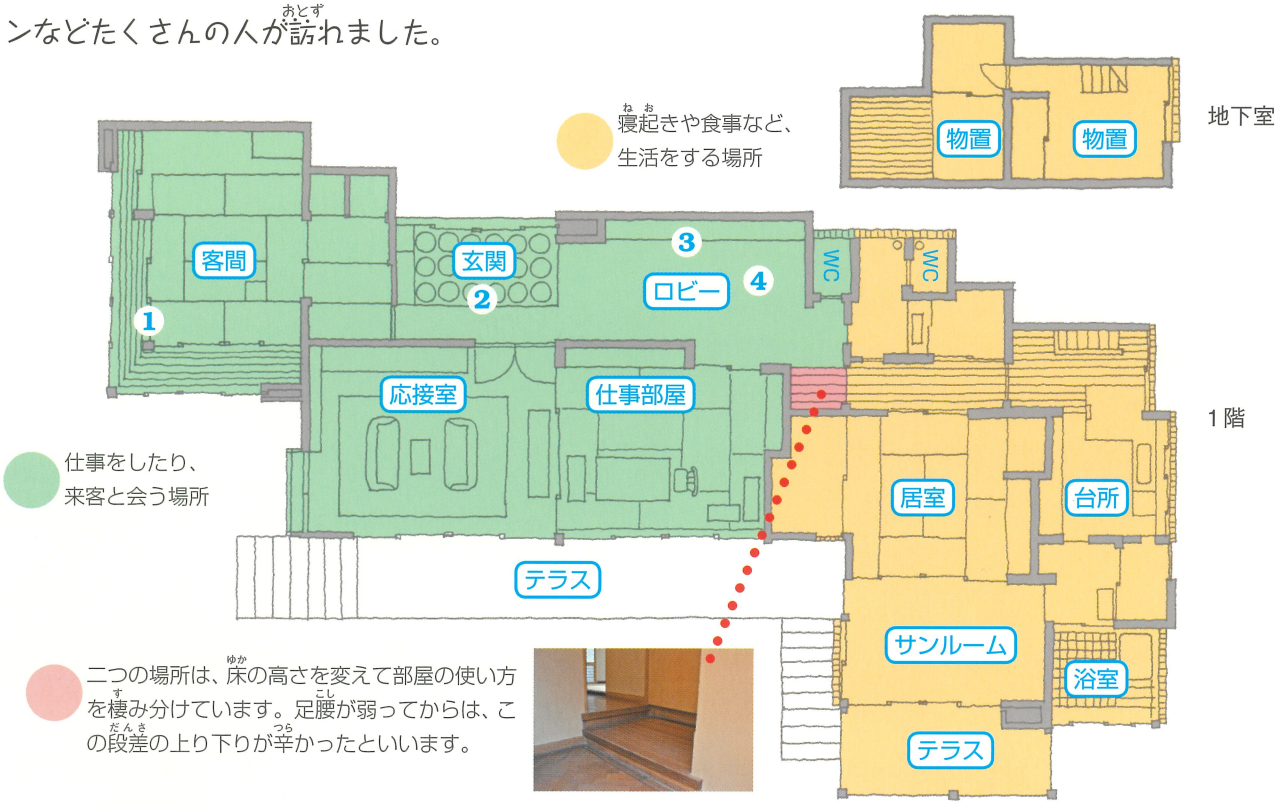


「…ここにつくった小さい家を、僕は仕事場と呼び、お客を呼ぶのが目的でなく、自分の仕事を完成するのを目的にしたいと思っている。」

「一人の男」二五〇章　昭和46（1971）年　より

■ひとつの家で仕事と生活をする工夫

実篤と妻・安子は、昭和30（1955）年12月20日に三鷹市・牟礼から引っ越します。京王線の仙川駅に近いことから「仙川の家」と呼び、本の編集者や絵を売る画商といった仕事の来客だけでなく、友人やファンなどたくさんの人が訪れました。



■これなあに？ 実篤の思いと建築のこだわり

1

妻を思った部屋作り

竹の格子にあけびのツルを巻いた、茶室によく見られる窓です。茶道をたしなむ妻を思って作られた和室にあります。

2

まん丸模様の靴ぬぎ場

初め、白っぽい石と石の間は真っ黒でした。正反対の色、丸い形を18個も並べる点に、モダンな雰囲気を感じます。

3

明るい家に住むために

日光が当たりにくい北側にも窓があり、太陽の光が入る明るい家に住みたいという実篤の思いが込められています。

4

職人の技術がつまった床

木を隙間なく組み合わせる「寄木」という方法で作られ、仕上げにロウを塗り、拭き取ることでツヤをだしています。

発行日／平成29年7月20日　企画・発行／一般財団法人 調布市武者小路実篤記念館　〒182-0003 東京都調布市若葉町1-8-30　TEL.03-3326-0648
デザイン・レイアウト／今井三樹男　　イラスト／矢口由美子　　印刷／株式会社ウエタケ